



## 舞鶴医療センター便り

### あなたは大丈夫？ 間違いやすい、誤解しやすい 薬との付き合い方

健康維持や病気からの回復のために、薬を使っている人は多いでしょう。しかし、皆さんは薬に関する正しい知識を持っていますか？ 薬と正しく付き合えていますか？ 正しい使い方をしなければ、薬は効かないばかりか、体に害を及ぼすこともあります。ここでは、間違いやすい、誤解しやすい使い方をご紹介します。



#### Q&A

挑戦してみよう！薬の〇×クイズ

#### 質問 1 薬にはリスクがある

答え ○

薬は病気からの回復などに役立つ一方、副作用を起こすリスクもあります。ですから、使うときは必ず医師や薬剤師などの専門家から説明を受け、正しい使い方を理解したうえで服用しましょう。

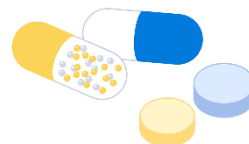
副作用とは、アレルギー反応の一つであるアナフィラキシーや肝機能障害のような、薬の望ましくない作用を指します。もちろん、薬を使ったからといって、常に起きるわけではありません。ただし、「アレルギーのある人」「過去にひどい副作用を経験したことがある人」「医師の治療を受けている人」「肝臓・腎臓など、薬の成分を代謝・排泄する臓器に疾患のある人」「ほかにも薬を飲んでいる人」「妊娠している女性、妊娠の可能性のある女性、授乳中の女性」「高齢者」は副作用が起きやすいので、特に注意が必要です。また、「高所作業や、乗り物または機械類の運転操作をする人」は、眠気等の副作用に注意が必要です。当てはまる人は服用する前に、必ず医師や薬剤師などの専門家に相談するようにしましょう。

#### 質問 2 飲み忘れたからといって、2 回分をまとめて飲んではいけない

答え ○

薬は決められた時間に服用しなければなりません。もし飲み忘れた場合は、思い出したときに、すぐに飲むようにしましょう。ただし、2 回分をまとめて飲んではいけません。もし次の服用時間が迫っている場合には、飲み忘れた分は飲まず、次からいつものように飲むようにしましょう。

なお、薬の種類によっては、飲み忘れたときの対応が異なる場合があります。薬を受け取る際には、必ず医師や薬剤師に確認しましょう。



### 質問3 たくさん飲めば、それだけ効果が高まる

#### 答え ×

たくさん飲んだからといって、効果が高まるわけではなく、場合によっては副作用や中毒症状が現れることもあります。医師や薬剤師に指示された量や製品に記載されている用量を必ず守りましょう。

また、薬を服用する際は、服用期間を守ることも大事です。「自覚症状が治まったから」と、自分で判断して服用をやめてしまう人もいますが、それにより再発したり、完治しなかったりすること。医師や薬剤師から服用期間を指示されている場合には、服用期間の途中で症状が治まってきても、必ず医師や薬剤師に相談しましょう。

### 質問4 薬はジュースで飲んでもよい

#### 答え ×

薬はジュースではなく水か、ぬるま湯で飲みましょう。

また、薬を飲むときの水の量は、コップ1杯が目安です。少なすぎると、薬がのどや食道に張りついて炎症を起こす可能性があります。ただし、医師から水分をとりすぎないように注意されている場合は、その指示に沿った飲み方をしましょう。



### 質問5 自分が処方された薬をほかの人にあげてもよい

#### 答え ×

医師は、その人の病気や症状、体質、年齢などを考えて薬を処方しています。自分と同じような症状が出ている人がいても、自分の勝手な判断で薬を人にあげてはいけません。



### 質問6 インターネット上で怪しい薬が売られていることもある

#### 答え ○

インターネット上には、国内で承認されていない医薬品を販売している違法サイトがあります。これらの違法サイトで販売しているもののなかには、重大な健康被害などを引き起こすものがありますのでご注意ください。

インターネット上、国内で承認されている医薬品を購入する場合でも、実際の店舗で買い求めるときと同じように、薬剤師や登録販売者が薬を使用する人に質問し、説明をしてから販売することになっています。こうしたルールをきちんと守っているサイトから購入しましょう。厚生労働省のウェブサイトには、インターネットでの販売を行う届出をしている店舗一覧が掲載されています。このサイトに載っているかも確認しましょう。

参考：厚生労働省広報誌「厚生労働」

(文責 薬剤部 原 伸好)

発行元：舞鶴医療センター 広報委員会